

横尾忠則 連画の河

2026年5月23日(土)～8月30日(日)

2023年、横尾忠則は80代後半にして、新たな試みを始めた。「連歌」になぞらえて「連画」と名付けられた連作は、《記憶の鎮魂歌》(1994年、当館蔵)に端を発し、ひとつ前の作品と次の作品とがゆるやかに繋がっている。昨日の絵は、今日の横尾を思いもよらない方向へと導き、60点を超える一大シリーズとなった。2025年に世田谷美術館で公開されたこれらの新作を、神戸でも紹介する。



《連画の河 2》
2023年

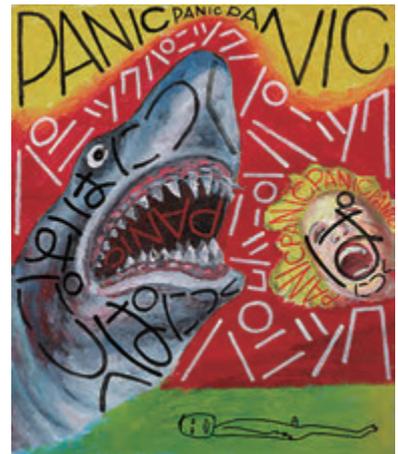
Curators in Panic 2

～横尾忠則展 学芸員危機2髪?

2026年9月19日(土)～12月27日(日)

2021年、大規模な個展のために横尾忠則の代表作約200点を貸し出してしまった当館学芸員が、残された作品から「推し」を選んだ開き直りの展覧会「横尾忠則展 学芸員危機一髪」の第2弾。今回は当館のコレクションから全力で「推し」を紹介する。

2012年の開館以来、展覧会を企画してきた学芸員たちが、作家にも美術史にも忖度なしで選ぶ独断と偏見のコレクション総選挙である。



《Panicばにつくパニック》
2002-2012年

横尾忠則のビフォー／アフター

2027年1月30日(土)～5月5日(水・祝)

1960年代の横尾忠則のポスター原画は、しばしばそれ自体がまるで作品であるかのような存在感を示している。また1980年代以降は、時に絵画がポスターの原画に用いられる。それらは、もはや原画と本画の主客関係を越えて、それぞれが自立した作品のように感じられる。

本展では、そうした横尾ならではの「ビフォー／アフター」に着目し、関連作品を併置することで、その独特な造形思考に迫ることを試みる。



《すべての武器を楽器に》
1997年